

TECHNO テクノレーダー RADAR

42

HUNTER Win Slip SS100

ドライブスルーの簡単測定で、足回りのコンディションをチェック



HUNTER Win Slip SS100



テストにはリモコンが付属しており、測定するときもクルマに乗ったままテストの操作ができる。

プレート上に設けられた2つのスイッチ（進入スイッチと退出スイッチ）を通過させ、それぞれ得た値の差を判定材料にする。

■足回りを簡易チェック

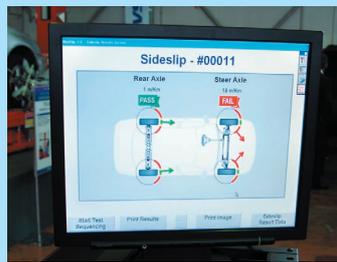
ホイールアライメントテストの老舗メーカーとして知られる米ハンター社が、サイドスリップテストの測定原理を発展させたホイールアライメント簡易テスト「Win Slip SS100」（乗用車／軽自動車向け）を開発し、日本で発売を開始した。

上の写真をご覧のとおり、プレート型リフトのような測定器を地面に設置し、クルマを通過させるだけで足回りのコンディションが簡易的にチェックできる。

また、測定結果に基づいてホイールアライメントの再調整が必要か自動判定する機能も備わっており、測定から判定まで30秒と作業時間が短いのもウリだ。判定結果はモニタにカラー表示され、カラープリンタで印字する機能もある。

米国では、すでにホイールアライメント簡易測定機として普及している。入庫時に同機を使って簡易測定し、その結果に応じてホイールアライメントの再調整をお客様に提案することで、ホイールアライメントテストの稼働率アップと収益向上を図るのだという。

たとえば、米国のとある「アキュラ店」では月間1,400台の入庫車すべてに同機を用いた無料



緑のマークは「適正值」だが、赤のマークは再調整が必要だ。



アライメント測定を実施し、約200台に調整を要する表示が点灯。そのお客様に再調整を提案し、ほぼ100%受注しているとのこと。それまで、既設のホイールアライメントテストがほとんど活用されなかったのが嘘のような稼働率アップに成功したようだ。

同機の国内販売を手掛ける機械工具商社によると、日本で初めて導入したのは北海道の專業整備工場だそうだ。その事業主によると「既設のホイールアライメントテストでもっと稼ぐ」ための“呼び水”としての働きに大きな期待を寄せているという。

ホイールアライメントテストを導入したものの、年月の経過とともに使用する機会が減ってしまった整備工場にとっては、サービス活性化の手段として同機を活用するという選択肢が増えたことを簡単には見逃せなさそうだ。